

27T-pm05S

経口プロトンポンプ阻害剤 (PPI) フォーミュラリー導入後のボノプラザンの使用実態調査

○ 畠山 由莉子¹, 上田 彩^{1,2}, 高野 純一³, 坂上 逸孝², 田中 恒明², 増原 慶壮⁴, 赤沢 学¹
(¹明治薬大, ²聖マリアンナ医大病院薬, ³日本調剤在宅医療, ⁴日本医薬総合研)

【目的】 聖マリアンナ医科大学病院 (以下当院) では、経済性を考慮した院内の標準薬物治療の指針として「フォーミュラリー」を導入しており、昨年から新作用機序のボノプラザンを含めた「経口プロトンポンプ阻害剤 (PPI) フォーミュラリー」を導入した。このフォーミュラリーでは、ボノプラザンは他の PPI と比較して胃酸分泌抑制作用が強いと言われていることから、漫然とした使用を避けるよう注意喚起するとともに、消化器内科限定の使用を推奨している。本研究ではフォーミュラリー導入後の当院におけるボノプラザンの使用状況を明らかにする。

【方法】 当院で 2016 年 5 月 17 日から 2016 年 12 月 31 日の間にボノプラザンが処方された患者を対象とし、電子カルテから診療科、使用目的、投与量・投与期間、前治療薬・変更薬を抽出した。

【結果】 対象となった患者 397 例のうち 116 例が院内処方 (調査期間内の初回診療時) であった。このうち 114 例 (98%) が消化器内科で処方されており、その他の診療科で処方された 2 例は共に他の PPI 無効で、その使用目的は胃がん術前の胃痛と嘔気および逆流性食道炎の既往があり化学療法に伴う心窩部痛 (患者希望) であった。院内処方全体の主な使用目的と平均投与日数は、ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) 後の潰瘍治療が 69 例 (21 日)、胃・十二指腸潰瘍が 32 例 (32 日) であった。ESD 後の潰瘍治療は 69 例中 38 例 (55%) の使用日数が 10 日未満であった。

【考察】 院内処方のうち、消化器内科以外で処方された 2 例については、他の PPI では無効であったため処方されたと考えられる。また、院内の使用目的として多かった ESD 後の潰瘍治療に関しては急性期にのみ短期的に使用されている傾向が明らかとなった。